

## グループCEOメッセージ

代表取締役 社長  
グループCEO

濱田 宏一

### 新型コロナウイルス感染症への対応

新型コロナウイルス感染症に罹患された皆さまと、ご家族および関係者の皆さんに謹んでお見舞いを申し上げると同時に、亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

当社グループは、職場の換気、アクリル板の設置、車出勤の推奨、会社バスの本厚木駅と事業所間の運行や全従業員へのマスク配布、ワクチンの職域接種など様々な感染症対策を徹底してきました。テレワークによる出社人数の削減率は最大80%となっています。さらに自社製造のマスクを地域病院に供給するなど地域貢献にも力をいれています。

また制度面でも従業員が躊躇なく休みをとれるように、新型コロナウイルス特別有給休暇制度の設定やテレワーク手当の設定、心と体のケアの為のカウンセラー窓口の設置など従業員が安全、安心に働ける環境づくりを行っております。

先行きは依然不透明ではありますが、当社グループは、今後もリスクレベルに応じたテレワーク対象範囲の最適化、ITインフラの整備・拡張および調達の多様化等の対策に取り組むことで、事業への影響を最小限に抑えるべく努めてまいります。

### 市場状況と当社の取り組み

情報通信分野においては、5Gサービスが各国で開始されるなど、オペレータの5G商用化スケジュールは順調に進展しています。日本においても2020年3月から都市部を中心とした一部のエリアで5Gサービスが開始されました。2020年7月には、3GPPにおいてユースケースの拡張が期待される超低遅延および多数同時接続の仕様策定「Release16」の標準化が完了し、Automotive分野での5G活用に向けた研究開発や、ローカル5Gのようなプライベート領域での5Gネットワーク構築に向けた調査や実証実験が始まっています。3GPPでは引き続き、高周波数帯の拡張、通信エリアの拡大、低消費電力・低コスト通信など、5Gの更なる効率性、性能改善を目的とした新たな仕様「Release17」の検討が、2022年の標準化完了を目指して進められています。

また、クラウドサービスの高度化や5Gサービスの進展によりデータ・トラフィックが急増し、ネットワーク・インフラを逼迫させつつあります。ネットワークのさらなる高速化を進めるサービス・プロバイダでは、100 Gbpsサービスの導入が本格化するとともに、ネットワーク機器メーカーでは、400 Gbpsネッ

# 「はかる」を極め、 共に持続可能な未来を築く

アンリツグループは、無線通信実験が世界で最初に成功した1895年に誕生し、2021年で創業126年を迎えます。その長い歴史は、常に情報通信の最先端技術を追い求めるパイオニアとして、挑戦の道を歩んできました。コアコンピタンスである「はかる」技術をベースに、情報通信分野と食品・医薬品分野を中心に支えてまいりました。

そして今、従来の「はかる」を超えた新しい領域へ踏み出すために、経営ビジョンを一新しました。攻めの姿勢で今までのアンリツの限界を超え、全てのステークホルダーの皆さまと共に、持続可能で魅力的な未来を次世代に繋いでいく。この強い想いを、2つの語に纏めたのが、新ブランドステートメント「Advancing beyond」です。このステートメントのもとで、次の事業の柱を成長させ、攻めの姿勢で今までのアンリツの限界を超えていきます。

アンリツは、これからもお客さまとともに、安全・安心で豊かなグローバル社会の発展に貢献してまいります。

トワーク装置の開発も進展しています。このような環境のもと、通信計測事業グループは、5G商用化に向けた開発関連需要およびネットワーク高速化に向けた開発・生産関連需要を獲得しました。

PQA事業の分野においては、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により一部の顧客の設備投資に慎重な姿勢が続いている中、品質保証工程の自動化需要の獲得に向けて、X線を軸としたソリューションの競争力強化と対面営業に代わる販売促進策の強化に取り組みました。

## GLP2020振り返り

当期は、前中期経営計画GLP2020の最終事業年度でした。

GLP2020の目標数値は売上1,050億円、営業利益145億円、営業利益率14%、ROE12%でありこれに対し、結果は売上1,059億円、営業利益197億円、営業利益率19%、ROE16%とすべての項目で達成することができました。

多くの企業がコロナ禍の影響を受ける中で、当社も例外ではありませんでした。顧客と直接面会できない中でご要望を

把握しなくてなりません。慣れないテレワークでコミュニケーションが難しい中、複雑な製品を開発しなくてはなりません。また市場の動向が見えない中で、突然の生産要求に対応しなくてはなりませんでした。このような多くの困難をお客さまや取引業者さまを始め多くのステークホルダーにご協力をいただきながら、従業員が一致団結して乗り越えてきました。ありがとうございました。

## ■中期経営計画GLP2020の振り返り

指標	GLP 2020			
	FY2018	FY2019	FY2020	FY2020*
売上高	997億円	1,070億円	1,059億円	1,050億円
営業利益	112億円	174億円	197億円	145億円
営業利益率	11%	16%	19%	14%
当期利益	90億円	134億円	161億円	110億円
ROE	11%	15%	16%	12%
計測事業	売上高	752億円	748億円	700億円
	営業利益	151億円	177億円	100億円
	営業利益率	20%	24%	14%
PQA事業	売上高	226億円	214億円	260億円
	営業利益	12億円	13億円	30億円
	営業利益率	6%	6%	12%

\*2018年4月策定

(参考) GLP 2020想定為替レート：1米ドル=105円、1ユーロ=125円

## グループCEOメッセージ

### ■ FY2030の目指す姿

経営ビジョン：「はかる」を超える。限界を超える。共に持続可能な未来へ。



### 新経営ビジョンへの思い

2021年度は新経営ビジョンと新三カ年計画GLP2023がスタートする年です。新経営ビジョンは

“「はかる」を超える。限界を超える。共に持続可能な未来へ。”

我々のコンピテンシーである「はかる」を極めていくとともに、内外の異なる発想や技術をさらに掛け合わせ、従来の「はかる」を超えた価値や新領域を開拓していくことで次の事業の柱を成長させ、攻めの姿勢で今までのアンリツの限界を超えていきます。そして関係するあらゆる人々とともに持続可能で魅力的な未来を次世代に繋いでいく思いをビジョンに込めました。

2020VISIONの過去10年間は利益ある持続的成長の実現で強い財務体質を構築してきました。この強い財務体質を有効に使い、今後は成長への投資を強化していきます。そして、2030年度は、アンリツグループの成長、飛躍のステージと位置づけ、4つのカンパニーと研究所の成長によって、安定した収益を上げる企業としての2,000億円企業を目指していきます。

#### 「はかる」を超える。

アンリツは、「はかる」を極めていくと同時に、外部の異なる発想や技術をさらに掛け合わせ、従来の「はかる」を超えた、更に高い価値や新領域を創造していく。

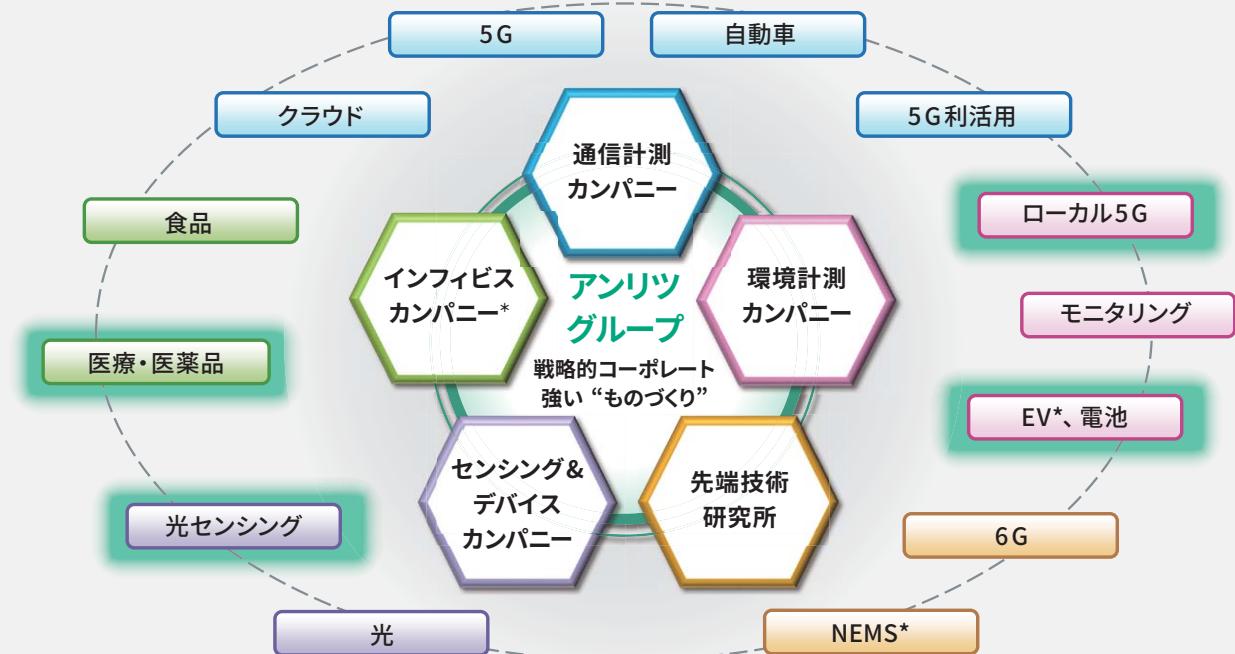
#### 限界を超える。

社員一人ひとりの情熱と挑戦で、自らの殻を打ち破り技術だけでなく、組織のあらゆる場面でブレークスルーを生み出し、事業のこれまでの限界を超えて、アンリツは変貌し続けていく。

#### 共に持続可能な未来へ。

これからのアンリツは、持続可能で魅力的な未来を次世代につなぐため、社員、お客さま、そして関係するあらゆる人々と共に、社会課題の解決に果敢に挑んでいく。

## ■GLP2023重点分野



## 4つの新領域を重点的に開拓

\*インフィビスカンパニー：PQA事業の推進

\*EV: Electric Vehicle

\*NEMS: Nano Electro Mechanical Systems

## GLP2023

### 5Gのピークに向けて成長の3年

GLP2023では2023年度連結売上高1,400億円、営業利益270億円、連結営業利益率19%、当期利益200億円、ROE15%の目標達成に取り組みます。

GLP2023の3年間は、5G計測市場のピークに向けた成長の3年です。5Gビジネスを中心に、さらに5G利活用分野への広がりやネットワーク高速化の需要拡大に的確に対応したソリューションをタイムリーに提供することで、競争力優位を確立し、5G/IoT社会を支えるリーディングカンパニーを目指します。

### 投資戦略と株主還元について

当社の事業は通信計測への依存度が高く、携帯電話の技術が変わるたびに、市場の影響を大きく受けてきました。この影響を少なくし、安定した収益を上げる企業となるため、新領域への成長投資やM&Aの投資を重点的に行ってまいります。そのうえでさらなる配当性向の向上や自己株の取得などの株主還元をおこなってまいります。ご理解をお願いいたします。

### 重点開拓する4つの新領域

さらにGLP2023の3年間は、将来に向けて新たな芽を成長させる3年でもあります。4つのカンパニーと先端技術研究所の体制のもと、重点的に新たに成長させる4つの分野を「EV、電池測定」、「ローカル5G」、「光センシング」、「医療・医薬品」と捉え、それぞれの分野で外部との連携やM&A等を行うことで成長を加速させてまいります。

さらに、その先も見据え、6GやNEMSと称するデバイスの基礎研究も開始しています。組織の枠を超えて、会社の枠を超えて、今までの概念に縛られず、前進してまいります。

#### 1. ローカル5G

##### ① 共同出資会社「AK Radio Design」の設立

2021年6月、株式会社構造計画研究所との共同出資によりAK Radio Design株式会社を設立しました。ローカル5G導入で必須の免許申請・取得のための支援、および導入後の運用プロセスの支援を提供します。

##### ② Anritsu 5G LABの開設

2021年4月、ローカル5Gの導入、運用、保守の各局面における、品質保証に必要なテストソリューションを実体験できる施設「ANRITSU 5G LAB」を開設しました。ANRITSU 5G LABには

## グループCEOメッセージ



AK Radio Design 株式会社設立調印式

アンリツ株式会社 社長 濱田宏一（左）  
株式会社構造計画研究所 取締役会長 服部正太（右）



Anritsu 5 G LAB

実際にローカル5Gに使用される基地局や通信端末が用意されており、ローカル5Gの電波状況や、データ速度や遅延を評価する各種の測定器群による様々な実証実験を行うことが可能です。

### 2. EV、電池測定

アンリツ株式会社は、2021年7月30日、株式会社高砂製作所の子会社化を決めました（子会社化完了は、2022年1月を予定）。業界屈指の高電圧・大電流・大容量の電気エネルギー制御技術や業界を牽引するお客さまとの取引関係を持つ高砂製作所を「EV、電池測定」分野を開拓するための中核と位置づけ、アンリツグループに迎え入れます。

### 成長戦略を実現する機動力のある組織体制

当社が目指す成長戦略に向けては新たな柱となる事業を創出するイノベーション（革新）を起こさなくてはなりません。人財や資金を効率良く回し、さまざまな事業の組み合わせからイノベーションが起きやすい機動力のある体制を整えるため、

グループ各社を本社に統合し、4つのカンパニーと先端技術研究所の体制としました。

### “ものづくり”にこだわる会社

さらに当社は“ものづくり”にこだわる会社です。製品にソフトウェアで付加価値をつけたとしても、新たなマーケットに進出したとしても、その基盤は“ものづくり”によって支えられています。しかしながら“ものづくり”的環境は厳しくなっています。

少子化による労働力不足が目の前に迫っています。熟練者の数は減る一方で、品質への社会的要請は益々強くなり、欠陥や不正検査は会社を一気に危機に陥れます。

東北アンリツ、アンリツインフィビス、アンリツデバイス、そしてアンリツカスタマーサポートは互いに連携して力を集結し、ロボット化やAI、IoTの活用を推進し、高品質を維持しながら付加価値の高い製品を産み出す「強い“ものづくり”的会社」を目指していきます。



## 「自分ごと化」を推進する サステナビリティ

当社グループは、誠実な企業活動を通じてグローバルな社会の要請に対応し、社会的課題解決に貢献してこそ企業価値の向上が実現されると考えており、GLP 2023では、サステナビリティ課題への取り組みとその目標とするところを掲げています。当社は、環境のカテゴリーでは温室効果ガス削減を重要課題と認識しており、「Anritsu Climate Change Action PGRE 30」を策定し、2018年度の電力使用量の約1%だった再生可能エネルギー自家発電比率を、2030年ごろまでに30%程度まで高める目標を掲げて取り組んでいます。目標実現に向けて主要拠点への太陽光発電設備の設置等も進めています。

また、女性幹部職比率の向上、高齢者活躍に向けた新待遇制度確立などのダイバーシティ経営の推進のほか、社外取締役比率50%以上確保などの経営の監督機能を高める取り組みも進めてまいります。

当社は、SDGsを「自分ごと化」する活動を推進することで、世界共通の目標達成に寄与してまいります。当社グループは、「誠と和と意欲」をもってグローバル社会のサステナビリティとSDGsへの貢献を通じて、企業価値の向上を目指していく所存です。

